

市長とのかがやきライフトーク

と き：平成27年1月21日（水） 13:00～14:30

ところ：子育て総合支援センター 会議室

団 体：大垣市母子寡婦福祉連合会

【団体紹介】

大垣市母子寡婦福祉連合会は昭和27年に設立し、母子寡婦福祉の増進を図ると共に、会員相互の連携と相互扶助を目的として活動してまいりました。

各小学校区を単位とし、20地区に役員（理事）を置き、毎月1回定例理事会、年1回総会を開催しています。

活動内容としては、親と子の集い事業として、じゃがいも、さつまいも栽培と芋ほり、餅つき大会・恵方巻き作り体験、小学校入学・中学校卒業祝い金事業（平成25年度実績 小学校入学47名、中学校卒業73名）、夏休み日帰り旅行、県母子・父子観劇会、子育て総合支援センターフェスティバル協力、入学・卒業祝い品の贈呈、母子部を設置し活動、福祉施設でのボランティアなどを行っています。



【団体】



私は40年前に主人を亡くしまして、まだ成長期の子供3人に励まされてがんばってまいりました。大垣市母子寡婦福祉連合会に入会させていただき、みなさんから助けられ、とてもありがたいと思っています。私も大変この会にはお世話になりましたので、こうした同じ境遇の、母子の方々にも入会していただいて、みんなで助け合う中で

大垣市母子寡婦福祉連合会を盛り上げていきたいと思っています。

ただ、加入のきっかけがなく、私たちも心配はしているのですが、母子

になられた方を聞いて歩くことはできないですし、自治会にたずねてもプライバシーの侵害になるということで教えていただけないという状態です。ですから、大垣市母子寡婦福祉連合会のチラシを、サービスセンターや地区センターなどに置かせていただき、ご案内してもらえないでしょうか。

【市長】

今おっしゃられたとおり、個人情報については大変きびしくて、プライベートな情報はお出ししないというのが大原則で、対象となった個人さんにすれば、どこから情報がもれたのかという話になりますので、こちらから積極的に言うということ是不可能です。しかし、ひとり親で小さいお子さんがいる方などに、市役所やサービスセンターなどで、適宜ご案内のチラシを置いたり、あるいは広報おおがきなどでお知らせするのはよい話だと思います。

【団体】

大垣市母子寡婦福祉連合会は、活動するにあたり独自の部屋がありません。人に知られたくない相談内容ですし、部屋があればいつも誰かがいて、もっと気軽に話を聞いたり相談できるのではないかと思います。また、毎年、小学校新入学児童全員にお祝いの品をお渡ししているのですが、数も多く置き場所がありません。今は個人の家を借りたり、子育て総合支援センターに置かせていただいています、やはり拠点がほしいです。



【市長】

常時の部屋をもてるかということですね。人数の多い団体などはスイートピアセンターを利用してもらっていますが、あちらは駐車場代もかかりますし、今は空きのない状態です。活動団体にどこまで部屋を設けられるかという話になりますが、全ての団体に部屋をというのは不可能な話でありますし、現状は専用の部屋をもっている団体は少ないです。

また、収納庫は本当に必要ですね。箱物をつくる時は表側に焦点があたってしまい、意外に収納のことは忘れがちです。市の美術品なども展示さ

れているのはごく一部で、保管されている作品の方がたくさんです。収納庫はいろいろな面で、全ての問題において付きまとうことであり、今後の課題です。

子育てというのは、ひとり親家庭にとって大きな課題でありますし、子育て支援のつながりとしても深いので、今までどおり子育て総合支援センターを活用していただくのがいいかもしれません。

【団体】

今度、団体の名称変更を予定しているのですが、母子寡婦の呼び方について、わかりやすい表現はなにかございますか。



【市長】

ひとり親家庭などわかりやすい言葉のほうがいいのではという気がします。

【団体】

女性が羽ばたけることは女性の立場としてとてもうれしいですが、何よりもいい子を育てるのが大切だと思います。昔は一生懸命女性が子どもを育てていましたが、今は結婚もしない、子どももいないとなると、いい子が少なくなってしまう気がします。子育てが終わってから羽ばたけばいいのではと思います。



【市長】

少子化で子どもが減っているので女性に活躍してもらわなければということも確かです。親さん、お姑さんが近くにみえれば夫婦で働きやすいですし、子育てと働くことが両方できれば言うことはないですが、なかなか難しいのも実情です。

【団体】

ひとり親家庭のお子さんは学習意欲が高まりにくいとか、塾に行きたくても経済的に無理があるとか悩んでいます。学習支援ボランティア事業に

ついて市の考えをお聞かせください。

【市長】

私がPTA会長をしている時に不登校児童のことが大きな問題になっていました。学校での競争や詰め込み教育ではなく、ゆとり教育をとということで土日休みにして、のびのびとやってきましたが、不登校児童は減りませんでした。どちらかという原因は家庭の問題が大きかったようで、土日休みにすると、学習塾に行ったり、行けなかったりする子もいて格差が出たり、逆に、余裕がありすぎて日本の教育のレベルが低下しているというデータもあります。学習効果をあげなければいけないという意味や、みんなが同じように教育の機会があるべきではということで、この4月から第1土曜日に授業を復活させ、新しいふるさと教育、英語、ITなど時代に適応した教育をとりいれて進めていきます。ほかにも、1学級あたりの児童数が30人以上となる小学校1年生の各学級に、非常勤講師などを配置したり、不登校児童の支援としてほほえみ相談員を配置するなど、いろいろサポートできるよう取り組んでいます。小学校の時はまず、学校に来てみんなと仲良く生活するというチームプレーが大事だと思います。

【団体】

離婚されて、お金もなく保証人もいないので住むところもないという相談があります。以前は母子寮がありましたが、廃止されましたのでどうしたらよいですか。



【市長】

一般的な離婚だと、当面の生活資金は確保されて、その上で新しい生活をされるというのがほとんどなので、仕事をされるまでのつなぎですね。そんなに多い相談ではないと思いますが、民生委員さんなど社会福祉課で相談してもらおうといいです。今、男女共同参画センターをつくるという話もありますが、離婚や就労の話、教育、生活保護、子育ての話など非常に幅広く、オールマイティーなかなり専門知識が必要です。いざとなると全てに対応するという事は多分野に及びますので難しいです。やはり、お話をうかがって、担当部署をご紹介していく形になるかと思います。ひとり親家庭でも事情がみなさん異なりますので、一つにパターン化して対応できないのが実情ですね。



【団体】

私の家は調剤薬局をやっており、自分の家も母子家庭だったので力になりたいと思い、母子家庭の方を採用して仕事をしてもらっていましたが、家庭の事情や子供の都合で休まれると、人の命にかかわる仕事ですので大変困ります。本当は採用するといいいのですが、仕事によっては難しいところがあります。

【市長】

子育てが終わってから仕事を探すみなさんが言われるのは、正社員の採用が少ないということで、パートの人が正社員になりたくてもなれない。逆に企業のほうが正社員でやってもらいたいのに、働く人の事情でパートを希望する反対の事情も結構多いです。どちらの場合も会社を休めないということで、0歳児保育の要望も多いですが、子どもにとって本当にいいことなのかという問題もあるし、担い手の保育士をたくさん確保しなければいけません。やはり3歳までくらいは手元において、子育てがひと段落したら正社員で働けるというのがいいですね。

本日は、いろいろとご意見をお聞かせいただきありがとうございました。

会の案内については、サービスセンターなどの窓口で紹介や、チラシを置いたりできるのではないかと思います。また、広報の中など配慮したいと思います。また、拠点の部屋ですが、正直難しいというのが実情です。会議室も駐車場も広い、子育て総合支援センターをご利用いただくのが非常にいいのかなと思います。

今はそれぞれのご家庭がそれぞれの悩みを持っておられ、行政も頭を柔軟にして対応しなければいけません。今後とも、みなさんのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

